

ゆたか診療所建設ニュース No. 1

9月1日(土)、建設予定地でゆたか診療所移転新築着工ビブアパーティーを行いました。各方面よりご支援・ご協力いただき、誠にありがとうございました。当日は不安定な天候で、開催自体危ぶまれましたが、開始とともに雨も上がり、最後には虹まで出るとい見事な自然の演出の下、無事成功させることができました。この日は「原水禁大会」参加者からの報告も行われました。

約100人の参加と募金27万円を集めることができ、これからに向けて良いスタートが切れたと感じます。

募金・地域協同基金の状況（9月10日現在）

募金：303万円（180件）

基金：805万円（40件）



建設予定地に看板を設置しました

ご協力ありがとうございます。引き続きよろしくようお願い申し上げます。



6月から続いている、原発に反対する「首相官邸前行動」に参加しています。
この1年半を振り返れば、原発は後始末のできない「化け物」ということは明らかです。
子ども連れの家族の参加も珍しくないほど多く見られます。
毎週金曜日の午後6時から8時までの2時間は、国民の意思表示として意義を感じる時間だと思えました。
(豊支部 唐沢英行)

三ツ木診療所で



「原発なくせ！」の思いを胸に



行動参加者の思いは一つ

8月28日(火)、三ツ木診療所で行われました。参加は28人。恒例の三ツ木カレーに、広島みやげのお好み焼きせんべい、地域の方々からの差し入れを食べながら、大会に参加した看護師の白石芳枝さん、大田歯科の糸数先生が報告してくれました。

支部と診療所が合同で 原水禁大会の報告会



うのき診療所で

9月8日(土)、うのき診療所で行われました。参加は20人。診療所事務の椎野綾さん、生協本部事務局員の伊藤豪さんが報告をしました。

核兵器のない平和で 公正な世界をめざして ～原水爆禁止 2012 世界大会 in 広島～

感動した広島での3日間

城南ドルフィン(中学2年生) 久保田秀朗



核廃絶の願いを込めた千羽鶴を持って

広島に行くのは2度目だけれど、原水禁世界大会に行ったのは初めてだった。

こんなところで、悲劇的なことがあったのはかんがえられないと思った。

1日目に開会総会があり、いろいろな国の人が、自分の国のことや日本の原発のこと、原爆のことを話していた。その中でも、中国の人のやったことがすごいと思った。自分のかみの毛をそつてまでうつつたえつづけるというのがすごく感動した。その他47都道府県すべてを通過してきた人たちの話もすごいと思った。

はじめに弾薬庫のあとを見た。弾薬は、広島から船で、自分と同じくらいの人を運んできていた。自分だったら、死んでしまっているのではないかと考えた。そのあとの、曙部隊慰霊碑前の慰霊祭では、いろいろなこみあげてくるものがあった。

2日目は、ぼくが楽しみにしていた、広島少女少女のつどいだつたので、すごくわくわくしていた。広島港の宇品というところについてからもわくわくがおさまらなかった。8時半に受付をして、似島という本をもらった。船に乗るまでずっとこの本をよんでいたけれど、それだけですごいことがあったのだなというのがよくわかった。

お昼のあと、被爆者の方から、まだ弟がみつからない、もう1人の弟も死んでしまった、死体の人をはごぶの肉がはがれる、などいろいろな話を聞いた。自分だったらなにもできないだろうなと思った。

その他に馬を火葬する馬匹検査所焼却炉というところに行つた。1990年の11月16日に馬の骨にまじって人の歯が見つかり、それでここは馬のほかに、人を火葬していたことがわかった。

似島での体験

船に乗って似島まで約20分。似島に着いたら自然が気持ちいいところで島もきれいだった。



似島での慰霊祭

人が人を殺める、これが強制的に許されてしまつ、それが戦争です。その最たるものが核兵器だと思ひます。そんなものは、もはやこの世界に必要なないと改めて強く感じました。この経験をいろいろな人へ継承し発信し、受け継いでいかなければならぬと強く思ひました。

原爆資料館

3日目は、平和記念式典があり、そのあと資料館に行つた。原爆の大きさ、上空何メートルでの爆発かなど、いろいろなものがおいてあつてすごく苦しくもあり、いろいろなことを知れた。

盛り上がった広島大会

本部事務局 伊藤 豪

今回の原水禁大会は節目の年だったと思います。福島の震災による原発事故で放射能汚染による最悪の放射能被害。それでもなお、再稼働を推し進める政府と電力会社。アメリカからの米軍基地のオスプレー強行配備の問題。問題意識が高まり20万人以上が立ち上がる国民。いろいろな大きな問題の中での原水禁大会はいつも以上に盛り上がりを見せていたと思います。

また。一番印象に残つたのは、分科会の感想交流での福島県代表の方からの訴えでした。

「福島の原発事故によつて放射能の怖さを体感しました。今でも放射能と闘っています。原発も核兵器も絶対になくしたい！」と涙ながらに訴えていました。ドルフィンの生徒は資料館の蠟人形を見て「核兵器は怖い」と言っていました。

人が人を殺める、これが強制的に許されてしまつ、それが戦争です。その最たるものが核兵器だと思ひます。そんなものは、もはやこの世界に必要なないと改めて強く感じました。この経験をいろいろな人へ継承し発信し、受け継いでいかなければならぬと強く思ひました。